

じょう とう みょう
常 燈 明

京成線の江戸川駅南側近くの
ほうりんじ ほうじゅ かさ ひぶくろ
 宝林寺境内に、宝珠・笠・火袋・
ちゅうだい さお くつし
 中台・竿・沓石からなるりっぱな
いしどうろう
 石灯籠があります。

江戸川区登録有形文化財の常
じょう
 燈明とうみょうで、銘文によれば、天保10
てんぽう
 年(1839)に「千住総講中」の人た
 ちによって建てられました。

もとは小岩市川の渡し場の堤
 の上にありましたが、江戸川の河
 川改修にあたり、現在の位置に移
 転しました。

高さ2mの常燈明が、1.82mの5
 段の台石の上にそびえたつ姿とそ
 の灯火は、遠くからもよく見えた
 ことと思われます。

台石には、成田山の不動明王を
 信仰する千住の講の人たちと世話人など、数十名の名が連記されています。航路安
 全祈願のために奉納されたものでしょう。

闇を照らす燈明は、経典では知恵にたとえられ、常燈明じょうやとう(常夜燈ともいう)は神
 仏に「不断ふだんの燈明」を献けんずることを意味しました。常燈明を巡礼者の道みちしるべや
 舟の航路の目印となるように、道の分岐点・渡し場や湊みなとなどの交通の要所に建て
 ることは、旅人の困難をやわらげるだけでなく、神仏に大きな功德を積むことでも
 あったのです。



常燈明（北小岩3丁目 宝林寺境内）

小岩市川の渡し場

小岩市川の渡し場は、千住～新宿からの水戸佐倉道＝成田街道と、逆井からの元佐倉道（現在の千葉街道）が合流、さらに篠崎からの岩槻道にも接していて、市川を経て佐倉・成田に至る交通の要衝でした。

渡し場には番所、後には関所が設けられ、旅籠や掛茶屋などがその道筋に並ぶ御番所町の街並を形成しました。今も江戸川駅から蔵前橋通りに至る御番所町の道沿いには、常燈明のほか、慈恩寺道石造道標や関所役人をつとめた中根氏代々の墓がある本蔵寺などが並び、往時をしのぶことができます。

成田山参詣の道

小岩・市川の渡しは、江戸時代中期から成田山に参詣する人々で賑わいました。

成田山新勝寺は将門の乱平定祈願の効験により天慶3年(940)に開基された古刹です。元禄16年(1703)から行われた成田不動の江戸での「出開帳」や、歌舞伎の市川團十郎が成田不動に帰依し「成田屋」の屋号を名乗り、不動明王が登場する芝居を打ったことなどもあいまって、庶民の信仰を集め、成田参詣がたいへん盛んになりました。そして佐倉道も成田街道とよばれるようになります。

また各地からの参詣道、特に江戸から成田に至る道ぞいには、各地の成田講中によって、りっぱな常燈明や道標が建てられました。

江戸川区域を通る成田山参詣路には、行徳道から今井の渡しや、今井から市川道をへて河原の渡しに行く道がありました。

下鎌田には、その道案内をする「成田山不動明王石造道標」が建っています。

また、江戸川対岸の行徳の河岸には、文化9年(1812)に江戸日本橋西河岸と蔵屋敷の講中によって奉納された常夜燈が、市川市の有形文化財として今も残されています。

舟で日本橋小網町から小名木川を経て行徳に至る行徳船(長渡船)は、歩くこともなく、また関所もない気軽さから、よく使われるようになりました。



市川市行徳河岸の常夜燈

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)